

皆さんおはようございます。7月も終わりが近づいてきました。今週は、今日から水曜日までの3日間をがんばれば、その後は4連休です。がんばりましょう。

さて、その4連休ですが、木曜日は海の日でお休み。金曜日は、スポーツの日でお休みです(カレンダーの用意)。このスポーツの日は、もともと東京オリンピックの開会式を行う日でした。今年、新型コロナウイルスの感染拡大がなければ、今週の金曜日が東京オリンピックの開会式だったんです。その東京オリンピックは来年の夏に延期になってしまいました。オリンピックを待ち遠しく思って待ち望んでいた人にとっては、とても残念でした。また、東京オリンピックに選手として出場を目指していた人にとっても、とても残念だったと思います。その出場を目指していた選手の中で、女子水泳選手に池江璃花子選手という人がいます。運動が大好きな池江選手は、なんと1歳で逆上がりができ、3歳で水泳を習い始めたそうです。そして、去年の段階では16の日本記録をもつ、日本人の水泳選手の中でトップの選手です。その池江選手が去年の2月、病気になりました。それも、白血病という、がんになってしまったのです。10代でがんになる人は本当に少なく、とても治りづらい病気です。毎日毎日何時間もやっていた水泳の練習は、その日からできないようになりました。すぐに、病院に入院したのです。その時のことを池江選手は次のように話しています。

『白血病って何?って感じで。小さい部屋に入って、マネージャーさんとお母さんと、あと何人かでお医者さんの話を聞いていて、白血病ということに関してはよく分からなかったですけど、そのあとお医者さんに治療として抗がん剤をやりますという話になって、それも、ああそうなんだって感じだったんですけど、そのあとに髪の毛が抜けますっていうことを言われたときに、それが一番ショックで、初めて泣きましたね』

池江選手を待っていたのは、がんを治すためのつらい治療です。その時のことを池江選手は次のように話して言います。

『もうとにかくずっと気持ち悪い、多い時には5回以上もどしたりしたし、1日で。朝から晩ま

でずっと気持ち悪くて、薬もらってもその場しのぎっていう感じでした。頭痛は思い出そうとしても思い出せないレベルで痛かったから、もうマックス 10 だとしたら 15 くらい痛かった。起きていることがしんどいっていうか、もはや生きていることもしんどいレベルで、体調は悪かったです。ひどいときは、本当にこんなに苦しいんだったら死んだ方がいいんじゃないかって思っちゃったときもありました。』

池江選手は、つらい治療をがんばって続け、去年 12 月に 10 か月にわたる入院生活を終え、退院することができたのです。そして、少しずつ、水泳の練習を始めました。その時に、池江選手は次のように話しています。

『どん底まで行った人間がここまで上がってきたんだっていう成長を、ちょっとずつでもいいから見せていければ、それはそれでいいんじゃないかなって思います』

それから『プールに入れるようになって、泳ぎ始めて、自分と同じような経験をしている病気になった人たちに勇気を与えたい。』とも言っています。

最後に池江選手は、今回の病気になったことについて、こう言っています。

『人間って当たり前のことを当たり前にやるけど、それが当たり前じゃなくなった時に、もう一度それができるようになった時にすごく幸せを感じるんだなって思っ。』

さあ、今まで池江選手の言葉を紹介しました。皆さんはどんなことを感じましたか。校長先生は、たくさん感じることもありましたが、2つの感じたことを紹介します。それは、1つ目は、どんなことがあっても、あきらめないこと、2つ目は、当たり前のことに感謝すること、これは毎日学校に来れること、ご飯が食べられること、ゆっくり眠れること、どれも当たり前ですね。でも、このことにありがたい気持ちを持てることが大切なんだ、そう感じました。皆さんも池江選手を応援してほしいと思いますし、皆さん一人一人が、がんばってほしいと思います。

これで、校長先生のお話を終わります。